

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：蓬萊日本語教室

1. 事業の概要

事業名称	2020年度「生活者としての外国人」のエンパワーメント事業
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	<p>福島県の人口は毎年15万人～20万人ずつ減少し2018年10月末で186万人である。一方、外国籍住民の人口は、東日本大震災で一時期減少したが、2012年以降年々増加し2018年10月末14,053人で、過去最高となり、今後も増加が予想される。国籍別にみると、第1位の中国出身者の数は、震災後横ばいであるが、ベトナム出身者をはじめ東南アジア出身者の増加が顕著にみられる。ベトナム出身者の多くは技能実習生で、2015年以降、毎年倍増し、2018年10月には2,657人となり、福島県内で第3位の外国出身者集団となっている。一方、第2位のフィリピン出身者も2,735人で増加傾向にある。また、インドネシア、タイ、ネパールなど、出身国が多様化している。中国出身やフィリピン出身に多い配偶者として来日した人は、日本での生活にも慣れ、子育て、仕事に奮闘している人も多い。しかし、日本人でも戸惑うことが多い、子どもの保護者としての振る舞いや仕事上や近所づきあいの人間関係等に悩みを抱えて生活している。また、仕事と家庭だけの生活で、自身が持っている能力や外国出身者だからこそ視点での地域社会への発信や貢献がなかなかできない状況にあるし、本人もできるということに気づいていないように思われる。</p> <p>一方、技能実習生や仕事のために来日した人は、地域社会で日本人との接触が限られる人も多い。地域社会との関係性を深めることは防災や防犯に大きな役割を果たす。自然災害が多い昨今、外国出身者と地域住民との関係作りは緊急の課題である。</p> <p>人口が減少している福島県で、地域コミュニティや職場や学校のPTAなどさまざまな場面で外国出身者の担う役割が増大しているが、日本人側も様々な価値観を持った人を包摂した地域社会づくりへの意識づくりという視点を持つことも大きな課題である。</p>
事業の目的	<p>外国出身者の存在を可視化し、外国出身者が地域住民にとって身近な人となり、様々な価値観を包摂した地域社会づくりが当たり前になる意識づくりのために、地域社会の人と外国出身者が接する機会を多く創出する仕掛けを創る。外国出身者が、日本での生活を安全で快適におくれるような知識と経験を提供する。</p> <p>さらに、外国出身者が、自身が持つ文化や価値観が、地域社会にとって価値のあるものであることに気づき、地域社会に積極的に参加し発信していけるようにする。</p> <p>上記の目的を果たすために、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを含めた人材を育成する。</p>
本事業の対象とする空白地域の状況 (空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	<p>【取組1】外国出身者と地域住民をつなぐ日本語講座 (日本語講座の実施)「生活者としての外国人」のためのカリキュラム案の「生活上の行為の事例」を参考に、外国出身者のニーズに応じて、地域住民に参加してしてもらい教室活動を行った。また、地域で開催されているイベントにも参加したり、日本人家庭を訪問するなどして、外国出身者が自らの力を発揮し、地域住民と関わることを目標にした活動を行った。それらを合わせて44.5時間の講座を実施した。</p> <p>【取組2】外国出身者のチカラを引き出すボランティア研修 (日本語ボランティア研修)「生活者としての外国人」のための日本語教育の理念を基本に、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアの育成を行うための日本語ボランティア研修会を実施。社会参加のための日本語教育、学習者に寄り添った日本語指導、やさしい日本語、学習者のライフコースなどを学ぶ講義を34時間実施した。さらに、日本語講座に参加し、学習者の日本語学習を補助する実習を31時間実施した。</p> <p>【取組3】生活ガイドを含む日本語学習教材及び日本語ボランティア用指導書の作成 (日本語学習教材の作成)2019年度に引き続き、「生活者としての外国人」のためのカリキュラム案の「生活上の行為の事例」にもとづき、新たに3つのテーマを追加し、2つのテーマを改定した生活ガイドを含めた日本語教材の作成した。2019年度に開発した日本語学習教材のベトナム語版と中国語版を作成した。さらに、作成した日本語学習教材の一部のテーマの指導書を作成した。</p>
事業の実施期間	令和2年5月～令和3年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	中川 祐治	福島大学・准教授
2	幕田 順子	(公財)福島県国際交流協会・主任主査
3	芳賀 洋子	地球っこクラブ2000・代表
4	ビィ ヴァン ホック	福島国際交流事業協同組合・相談役 通訳
5	日下部 喜美子	蓬萊日本語教室・代表
6	佐々木 千賀子	蓬萊日本語教室・副代表



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年5月23日 (土) 13:00~15:00	2時間	ZOOMによる オンライン会議	中川祐治、幕田順子、 芳賀洋子、佐々木千賀子、 ブイ ヴァン ホック、 日下部喜美子	1. 自己紹介、昨年度の文化庁事業について 2. 日本語講座 実施内容の検討 3. 日本語ボランティア研修会 実施内容の検討 4. 教材作成 内容の検討
2	令和3年2月27日 (土) 18:00~20:00	2時間	いやしカフェ(福島市) 一部オンライン	中川祐治、幕田順子、 芳賀洋子、佐々木千賀子、 ブイ ヴァン ホック、 日下部喜美子	1. 日本語講座 振り返りと評価 2. 日本語ボランティア研修会 振り返りと評価 3. 教材作成 作成内容の報告 4. 次年度以降の課題に対するアドバイス

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)福島県国際交流協会:事業の広報をしてもらい、日本語教育だけではなく国際理解に関心を持つ人に日本語ボランティア研修会に参加してもらえた。国際理解、多文化共生の観点からアドバイスをいただき、事業内容に深みを出すことができた。 ・福島市と福島市国際交流協会:日本語ボランティア研修会を共催することができ、地域住民への周知に協力してもらった。また、研修受講者に対し、福島市内でのボランティア活動の案内してもらった。 ・福島大学:日本語ボランティア研修会の講師派遣してもらった。学生に日本語ボランティア研修会への参加を呼びかけてもらった。また、事業内容へのアドバイスをいただいた。 ・県内地域日本語教室:日本語指導の協力と学習者及び日本語ボランティア研修会への参加協力をしてもらった。 ・福島県内の外国出身者のコミュニティ:コムタスインドネシア、日中文化ふれあいの会幸福、ベトナム出身者コミュニティと連携し、外国出身者のニーズの掘り起こし、日本語講座を開催できた。各コミュニティの協力のもと、インドネシア語、中国語、ベトナム語に翻訳した日本語学習教材を作成することができた。日中文化ふれあいの会幸福で日本語講座を開催し、動画教材が作成できた。ベトナム出身者コミュニティから日本語学習、日本観などを日本語ボランティア研修会において発表してくれる人を紹介してもらった。 ・蓬萊学習センター:会場の提供と事業の広報をもらった。 ・外国出身者を雇用している企業:日本語講座への社員の参加協力をいただいた。 ・福島市教育委員会社会教育課:日本語ボランティア研修会の後援をもらい、日本語教室の活動を社会教育の一つとして地域住民にアピールできた。 ・(一社)ふくしま多言語フォーラム:日本語ボランティア研修会の講師派遣をしていただいた。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>インドネシア出身者コミュニティ「コムタス福島インドネシア」、ベトナム出身者コミュニティ、中国出身者コミュニティ「日中文化ふれあいの会幸福」と協働で、日本語教材を作成し、日本語講座を実施した。</p> <p>福島県国際交流協会、学習センター等と連携して日本語ボランティアの育成、外国出身者の活躍の場の開拓をした。</p> <p>運営委員を依頼している福島大学の中川祐治氏には、日本語教育の専門的な立場からのアドバイスをいただいた。</p> <p>「(一社)ふくしま多言語フォーラム」の永島恭子氏に、日本語講座の講師を依頼し、講師陣を充実させた。講座の成果物として動画教材も作っていただいた。</p> <p>コーディネーター日下部喜美子は、プログラムの企画・立案、日本語教材の作成、外国出身者のニーズを調査し、関係団体と連携し地域住民と外国出身者との対話や交流を促進するための体制整備、人材の養成のための研修を主に担当した。</p> <p>指導者佐々木千賀子は、日本語指導及び教材の作成を主に担当した。</p>
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:(取組1)外国出身者と地域住民をつなぐ日本語講座】			
取組の目標	外国出身者が日本で安全で快適な暮らしが出来るように知識と体験活動を提供する。外国出身者の存在を可視化し、地域社会に外国出身者がいることは当たり前という意識を創り、外国出身者の社会参加が進み、社会への発信ができるようにする。		
内容	<p>①中国出身者コミュニティと協働の日本語講座を3時間×8回実施した。</p> <p>中国出身者が日本の生活で不思議に思っていることを持ち寄り、自ら脚本作成、撮影などをし動画を作った。その過程で、場に合った日本語の学習や、交渉するための表現などを学習し、地域の日本人と対話するよう配慮した。また、作成した動画をYoutubeにアップし、外国人出身者の考えを発信することができた。</p> <p>②生活ガイドを含む日本語教材を使った日本語講座を27回実施した。</p> <p>日本人家庭を訪問し、地域住民との人間関係を構築できるような日本語講座を実施した。また、日本で生活する外国出身者が安全で快適に生活するために、情報入手とコミュニケーションスキルを高めることに重点をおいた日本語学習をした。さらに、外国出身者が持っている力を発揮できるような講座も開催した。</p>		
実施期間	令和2年6月7日～令和3年3月14日	授業時間・コマ数	1回 1.5時間 × 2回 = 3時間 1回 2時間 × 24回 = 48時間 1回 3時間 × 8回 = 24時間 1回 6時間 × 1回 = 6時間 計 81 時間
対象者	外国出身者、地域住民	参加者	総数 309人 (受講者 151人, 指導者・支援者等 158人)
カリキュラム案活用	日本語講座のテーマはカリキュラム案「生活上の行為の事例」を参考に、学習者の状況に合わせて決定した。日本語能力評価を参考に、学習者が日本語学習のポートフォリオを作成することを促した。日本語講座の実施に当たっては、教材例集の教材も参考にした。		

使用した教材・リソース		昨年度および今回作成したオリジナル教材								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	71	0	0	4	0	17	32	0	2	
	パキスタン(16人)、カンボジア(3人)、スリランカ(7人)、ラオス(3人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年6月7日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	感染症予防について	自己紹介 学習者と支援者が自分の感染症予防について情報交換をした。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、齋藤千冬		
2	令和2年6月14日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	感染症予防について	新しい生活様式についての確認 コロナウイルス感染症の症状について相談窓口の紹介	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、齋藤千冬		
3	令和2年6月21日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	感染症予防について	自分のコロナウイルス感染症対策について作文を書き発表する。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、齋藤千冬		
4	令和2年6月28日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	今までの人生とこれからの人生	過去を表す表現と未来を表す表現を使って自分の過去と将来を語る。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉		
5	令和2年7月12日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	6	今までの人生とこれからの人生	これまでの人生について作文を書き、発表する。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉		
6	令和2年7月19日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	2	今までの人生とこれからの人生	日本と学習者の故郷の気候の比較 今後の人生設計について、支援者と話し合い発表する。	日下部喜美子	菅野由貴子、末永留吉、佐々木千賀子		
7	令和2年8月2日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	2	自分の得意料理を紹介する	自分の得意料理について支援者と対話する。 料理の動詞を確認する。	佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、齋藤千冬、日下部喜美子		
8	令和2年8月9日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	自分の得意料理を紹介する	料理の思い出について支援者と対話する。 料理の説明をする。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉		
9	令和2年8月16日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	3	自分の得意料理を紹介する	自分の得意料理のレシピを漢字交じりで書き発表する。 連体修飾の練習。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、齋藤千冬		
10	令和2年8月23日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	2	自分の得意料理を紹介する	自分の得意料理を紹介する原稿を書き、覚え、動画に撮影する。	佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、日下部喜美子		
11	令和2年8月30日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	2	自分の得意料理を紹介する	自分の得意料理の作り方を日本語で練習する。飲食店での接客の日本語を練習する。	佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、日下部喜美子		
12	令和2年9月6日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習センター	5	自分の得意料理を紹介する	料理を作り、動画を撮影する。	日下部喜美子	菅野由貴子、末永留吉、加藤和美、遠海萌、永島恭子、佐々木千賀子		
13	令和2年9月12日 (土) 10:00~16:00	6	福島市国際交流フェスティバル(街なか広場)	3	自分の得意料理を紹介する	国際交流フェスティバルで料理の説明をしながら料理を売る。 来場者と対話をする。		菅野由貴子、佐々木千賀子 日下部喜美子		

14	令和2年9月20日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	5	自分の得意料理 を紹介する	料理の動画にアフレコをする。 <a href="https://www.youtube.com/channel/UC
TmFYWe0SeuGcg5pbjym9JA">https://www.youtube.com/channel/UC TmFYWe0SeuGcg5pbjym9JA	佐々木千賀子 菅野由貴子	末永留吉、日下部喜美子
15	令和2年9月27日 (日) 10:00~11:30	1.5	福島市蓬萊 学習セン ター	7	日本人の家庭を 訪問する	日本人の家庭を訪問してどんな話題で 会話するか考える。 実際に日本人家庭を訪問する。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、川崎多鶴子、 山口良平 末永留吉、安齋由、 但野智子
16	令和2年9月27日 (日) 15:00~16:30	1.5	福島市蓬萊 学習セン ター	6	日本人の家庭を 訪問する	実際に日本人家庭を訪問する。 訪問した感想を述べあう。 訪問の体験を作文し発表する。 <a href="https://www.youtube.com/channel/UC
TmFYWe0SeuGcg5pbjym9JA">https://www.youtube.com/channel/UC TmFYWe0SeuGcg5pbjym9JA	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、山口良平 末永留吉、安齋由、 但野智子
17	令和2年10月18日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	みんなで旅行の 計画を立てる	日本でしたいことを話し、みんながした いことを具体的に決める。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬
18	令和2年11月15日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	みんなで旅行の 計画を立てる	スキー場に行く計画を立てる。 スマホを使ってスキー場の情報や費用 を調べる。	日下部喜美子	菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬、吉村彩
19	令和2年12月6日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	サバイバル日本 語	ゼロ初級の学習者のための自己紹介	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、
20	令和2年12月20日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	2	サバイバル日本 語	いいですか？ 〇〇ですか？はいそうです。いいえちが います。	日下部喜美子 佐々木千賀子	末永留吉、難波 三上多恵子
21	令和3年1月17日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	5	サバイバル日本 語	誕生日はいつですか？	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬
22	令和3年1月24日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	サバイバル日本 語	～が好きです。	佐々木千賀子	末永留吉、齋藤千冬、 尾形、池田裕美子
23	令和3年1月31日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	2	サバイバル日本 語	～へ行きます、～から来ました。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬、池田裕美子
24	令和3年2月7日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	サバイバル日本 語	交番・銀行・病院へ行きます。 どうして行きますか？	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬、児玉良平
25	令和3年2月21日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	1	自分の得意料理 を紹介する	アフレコをして動画を完成させる。		菅野由貴子、末永留吉、 齋藤千冬、佐々木千賀子、 日下部喜美子
26	令和3年2月28日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	サバイバル日本 語	寝ました、起きました。食べました。飲み ました。	佐々木千賀子	菅野由貴子、齋藤千冬、 池田裕美子
27	令和3年3月14日 (日) 10:00~12:00	2	蓬萊学習セ ンター	3	私たちの共通点	グループに分かれてメンバーの共通点 を探し発表する。	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、齋藤千冬、 末永留吉、池田裕美子
28	令和2年7月12日 (日) 14:00~17:00	3	郡山市中央 公民館	9	自分たちで動画 を撮る①	動画を見て、アテレコの練習をする	永島恭子 日下部喜美子	日下部誠一

29	令和2年8月9日 (日) 14:00~17:00	3	郡山市中央 公民館	10	自分たちで動画 を撮る②	カット割りをする 動画を撮る	永島恭子 李莉岩	日下部誠一
30	令和2年9月13日 (日) 14:00~17:00	3	郡山市中央 公民館	10	自分たちで動画 を撮る③	シナリオを作る	永島恭子 李莉岩	日下部誠一
31	令和2年10月4日 (日) 14:00~17:00	3	郡山市中央 公民館	8	自分たちで動画 を撮る④	作ったシナリオを検討する	永島恭子 李莉岩	日下部誠一
32	令和2年11月1日 (日) 13:30~16:30	3	とんがりふ れあい館(21世紀記念 公園)	7	自分たちで動画 を撮る⑤	ドラマを撮影する	永島恭子 李莉岩	日下部誠一 前田尋貴
33	令和2年11月3日 (火) 14:00~17:00	3	紅四季	6	自分たちで動画 を撮る⑥	ドラマを撮影する撮影する	永島恭子 李莉岩	大寺正晃 前田尋貴
34	令和2年11月8日 (日) 14:00~17:00	3	受講者宅	6	自分たちで動画 を撮る⑦	ドラマを撮影する撮影する	李莉岩	
35	令和2年11月10日 (日) 14:00~17:00	3	郡山市中央 公民館	6	自分たちで動画 を撮る⑧	字幕を作る 日本語学習を振り返る	永島恭子 李莉岩	

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年6月21日】

- 1 自己紹介をする
- 2 新型コロナウイルスに関して自分が知っていることを話す
- 3 感染しないように気をつけていることを話す
- 4 新型コロナウイルスに関する新しい言葉(3密、ソーシャルディスタンスなど)を学習する。その言葉を知っている外国出身者は他の人に説明する。
- 5 新型コロナウイルスに感染したらどうするか確認する
- 6 この講座で知ったこと、これからの生活で気をつけようと思ったことを書く
- 7 書いたものをみんなの前で発表する



○取組事例②

【第14回 令和2年9月12日】

- 1 調理準備会場で自国の料理の作り方を支援者に説明し、調理の指示をする
 - 2 作った料理に関するエピソード(どういう料理なのか、どのような時に食べるのか、その料理に関する思い出など)を説明できるように練習する
 - 3 国際交流フェスティバル会場で、日本語を使って接客をする
- 日本語でフェスティバル会場者と楽しそうに話す様子が見られた。また、外国出身者の言葉を学習しているという来場者に、言葉を教える場面もあった。自分たちの地域に住んでいる外国出身者を知ってもらえたことと同時に、彼らが持っている力を知ってもらえた。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケート結果や講座実施者の振り返りをもとに、運営委員会で評価した。

- ・講座を開催することで、外国出身者と日本人の接触の機会を作ることができた。
- ・「感染症予防」の回のように、同じ状況に置かれている者同士という対等な関係で、「外国出身者」「日本人」という枠を外し、共に学び合う活動を数多く提供できた。
- ・国際交流フェスティバルに参加し、料理の説明をしながら料理を売ることによって、地域に住む外国人の存在を地域住民に対し可視化することができた。また、外国出身者が持つ力や魅力を地域にアピールすることができた。外国出身者も地域住民と接することができた。
- ・地域住民が講座に参加し、協力してくれた。「外国出身の仲間と活動する」というテーマの回では、同じ地域に住む住民同士という立場で、その地域がもっと住みやすくなるためにはどのようなモノ・場所があればいいのかなど考えを出し合い、共に地域作りの担い手であると確認することができた。
- ・中国コミュニティで開催した講座では、中国出身者が日本の生活で不思議に思っていることを日本社会に向けて発信する動画をつくることのできた。違っていることが良くないのではなく、違いを認め合うことからはじめ、外国出身者も日本人もともに生活していこうというメッセージを発信することができた。
- ・講座の活動で日本人家庭を訪問し、外国出身者と日本人のつながりができた。講座後もその家庭に招待されたり、一緒に出かけたりするなど、いい関係が築けたようだ。外国出身者のコミュニケーションスキルを高めることにもつながり、自らの日本語の力を知ることができた、もっと日本語を学びたいという声も聞かれた。外国出身者が日本で心地よく暮らすことができる力をつける一端になった。
- ・人種や国籍ではなく、個人としての考えや魅力を引き出す工夫があった。
- ・日本語講座に参加、協力してくれた地域住民が外国出身者と活動することで、外国出身者に対する気持ちのハードルが低くなり、外国人を身近な存在だと意識するようになった。また、外国出身者と日本語で活動することで、外国出身者に伝わる話し方や言葉の選び方を意識するようになった。

(3) 今後の改善点について

- ・地域住民が外国出身者と対話するためには「やさしい日本語」や相手に合わせた表現が必要だと理解はしても、実際にはうまくいかず四苦八苦している様子が見られた。「やさしい日本語」に変換するための練習は今後も必要である。
- ・中国出身コミュニティでの日本語講座で動画を作り発信できたことは、コミュニティのみさんの大きな自信につながったようだ。次回は、出身に関係なく広く参加者を募り外国出身者同士の大きな繋がり作りを意識したい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称:外国出身者のチカラを引き出す日本語ボランティア研修会】

取組の目標	外国出身者が地域住民にとって身近な人となり、様々な価値観を包摂した地域社会づくりが当たり前になる意識改革のために外国出身者と地域住民をつなぐ日本語ボランティアを育成する。
内 容	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活者としての外国人」のための日本語教育(3時間) ・社会参加のための日本語教育(3時間) ・障がいのある学習者に寄り添った日本語教育(3時間) ・外国出身者の日本語学習活動例①、②(6時間) ・日本語指導の活動例(3時間) ・やさしい日本語(実習を含む)(5時間) ・事例紹介-地域に対してどう可視化していくか(3時間) ・学習者の日本語・日本観の変化や居場所を見つけたきっかけについて(3時間) <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室活動「自分の得意料理を紹介する」に参加し、補助する(3時間) ・日本語教室活動「日本人家庭を訪問する」に参加する(1.5時間×2回 計3時間) ・日本語教室活動「旅行の計画を立てる」に参加(2.5時間×2回 計5時間) ・日本語教室活動「身体の不調を訴える」に参加(2.5時間) ・日本語教室活動「夫婦の家事分担」に参加(2.5時間) ・日本語教室活動「サバイバル日本語」に参加(2.5時間×2回、2時間×1回 計7時間) ・蓬萊日本語教室を例にした地域日本語教室の説明案内(2時間) ・子どもの日本語教室での日本語指導(2時間×3回 計6時間)

実施期間	令和2年7月5日～令和3年2月28日		授業時間・コマ数	1回 2.5時間 × 1回 = 2.5時間 1回 3時間 × 7回 = 21時間 1回 5時間 × 1回 = 5時間 1回 5.5時間 × 1回 = 5.5時間 実習 1回 1.5時間 × 2回 = 3時間 実習 1回 2時間 × 5回 = 10時間 実習 1回 2.5時間 × 6回 = 15時間 実習 1回 3時間 × 1回 = 3時間 計 65時間						
対象者	地域日本語教室での活動に関心のある人		参加者	総数 515人 (受講者397人, 指導者・支援者等 118人)						
カリキュラム案活用	日本語教育人材の養成・研修の在り方についてを参考に、日本語ボランティア研修のテーマ、内容を決定した。指導力評価についてを参考に、日本語ボランティアが自身の活動を振り返ることができるように配慮した。									
使用した教材・リソース	担当講師オリジナルの教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										397
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年7月5日(日) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	56	【講義】 社会参加のため の日本語教育	・「外国人が社会参加する」とは 何を指すのか ・「外国人が社会参加する」 ために「私たち」はどうある べきか ・「社会参加のための日本語 教育」とはどのような実践か ・「社会参加のための日本語 教育」は何をめざすのか	南浦涼介			
2	令和2年8月2日(日) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	55	【講義】 日本語指導の活 動例	・日本語ボランティアとは ・社会参加のための日本語 教育とは ・日本語指導の活動例	永島恭子			
3	令和2年8月29日(土) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	48	【講義】学んだこ とばを生きる力に	・「のしろ日本語学習会」の 活動紹介 ・地域に暮らす外国人を支 える「教室」の役割 ・持続可能な社会的統合へ の取り組み ・リテラシーと対話力	北川裕子	北川智広		
4	令和2年9月5日(土) 9:30～12:30 13:00～15:30	5.5	福島市蓬萊 学習セン ター	42	【講義】学習者に 寄り添った日本語 教育	・「学習者に寄り添う」とは ・言語的とまどいの体験に ついて ・まとめ～支援の成否は「 相手が助かったかどうか」 ・学習障害のある学生に 対する語学教育の実践例	橋本洋輔			
5	令和2年10月11日(日) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	49	【講義】「生活者 としての外国人」 のための日本語 教育とは	・日本社会の変化と外国 人 ・生活者としての外国人に とっての日本語 ・「生活者としての外国人」 のための日本語とは	松岡洋子			
6	令和2年11月8日(日) 10:00～12:00 13:00～16:00	5	福島市蓬萊 学習セン ター	25	【講義】やさしい 日本語(実践編)	・「やさしい日本語」とは ・単語・文のポイント ・実践の練習 ・振り返り	齋藤美幸	アフマド・ズベール 佐々木ジャマス ディマス フィルマン サブ トラ モー アグン プラセティ ヨ フォクトル ジャエラニ シ ディック ムハマッド ズルフィカル ファウジ ナウファル パシル ハナン パフティアル ユヌス ロフマツト 山口良平		
7	令和2年11月15日(日) 14:00～16:30	2.5	南相馬市 市民情報交 流セン ター	11	【講義】やさしい 日本語(実践編)	・「やさしい日本語」とは ・単語・文のポイント ・実践の練習 ・振り返り	齋藤美幸	外国出身者3名 ※氏名掲載不可		

8	令和2年11月29日(日) 13:30~16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	15	【講義】学習者との豊かな時間を共有する活動例	・多様性豊かな時間を作る活動例 ・エンパワメント実現に向けた流れ ・対話の重視 ・楽しいクラス活動をする上で配慮すること	芳賀洋子	佐々ベンジャマス 山崎恵 ディマス フィルマン サブトラ モー アグン プラセティヨ フェクトル ジャエラニ シディック ムハマッド スルフィカル ファウジ ナウファル バシル ハナン パフティアル ユヌス ロフマツト 山口良平 (発表)
9	令和3年1月24日(日) 13:30~16:30	3	福島市蓬萊 学習セン ター	37	【講義】学習者の日本語・日本語観の変化	・学習者のライフコースから日本語学習を考える ・学習者の今後の人生設計において、必要とされる日本語学習を考える ・学習者にとって日本語学習はどのような意味を持つか	中川祐治	佐々ベンジャマス ブイバン ホック チン ダイ ズオン
10	令和3年2月28日(日) 13:00~16:00	3	南相馬市民 情報交流セ ンター	12	【講義】学習者との豊かな時間を共有する活動例	・多様性豊かな時間を作る活動例 ・エンパワメント実現に向けた流れ ・対話の重視 ・楽しいクラス活動をする上で配慮すること	芳賀洋子	外国出身者10名 ※氏名掲載不可
11	令和2年9月6日(日) 10:00~13:00	3	福島市蓬萊 学習セン ター	4	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「自分の得意料理を紹介する」に参加する ・自己紹介をする ・学習者に料理の作り方を質問し、学習者がそれを日本語で言えるように補助する ・学習者と対話し、学習者から料理に関するエピソードを引き出す	日下部喜美子	佐々ベンジャマス リザル アルガ ヨガラクサ ヴェラ ルデイヤント 楚旭 ベン スレイニッチ
12	令和2年9月27日(日) 10:00~11:30	1.5	福島市蓬萊 学習セン ター	3	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「日本人の家庭を訪問する」に参加する ・自己紹介をする ・日本人家庭を訪れる際に使う挨拶等の練習相手を務める	日下部喜美子 佐々木千賀子	ユヌス ロフマツト アクマル ムハディ ムハマッド スルフィカル ファウジ ナウファル バシル ハナン パフティアル イマム ムハマッド ラシッド リド エムジェ モーアグン プラセティヨ 楚旭
13	令和2年9月27日(日) 15:00~16:30	1.5	福島市蓬萊 学習セン ター	3	【実習】 日本語教室に参加する	・訪問の体験を作文にするのを補助する ・書き上げた作文を発表するために補助する	日下部喜美子 佐々木千賀子	ユヌス ロフマツト アクマル ムハディ ムハマッド スルフィカル ファウジ ナウファル バシル ハナン パフティアル イマム ムハマッド ラシッド リド エムジェ モーアグン プラセティヨ
14	令和2年10月18日(日) 9:40~12:10	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	5	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「みんなで旅行の計画を立てる」に参加する ・自己紹介をする ・行きたいことやしたいことに関する情報収集する方法を示す ・学習者が自分の考えを述べることができるよう補助する	日下部喜美子 佐々木千賀子	佐々ベンジャマス リザル アルガ ヨガラクサ ヴェラ ルデイヤント
15	令和2年10月25日(日) 9:30~12:00	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	5	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「身体の不調を伝える」に参加する ・自己紹介をする ・体の部位の名称が分かるように示す ・体調を整える運動を実際に行き見せる	日下部喜美子 佐々木千賀子	佐々ベンジャマス 楚旭
16	令和2年11月1日(日) 9:30~12:00	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	5	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「夫婦の家事分担について」に参加する ・自己紹介をする ・学習者がテーマに沿って発話できるようモデルを示す	日下部喜美子 佐々木千賀子	佐々ベンジャマス
17	令和2年11月15日(日) 9:30~12:00	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	4	【実習】 日本語教室に参加する	・日本語教室「旅行の計画を立てる」に参加する ・自己紹介をする ・学習者が行きたいところや興味があるところと言えようように促す ・そこに行くための情報収集のモデルを示す	日下部喜美子 佐々木千賀子	佐々ベンジャマス リザル アルガ ヨガラクサ ヴェラ ルデイヤント
18	令和2年11月22日(日) 9:30~11:30	2	福島市蓬萊 学習セン ター	3	【実習】 日本語教室に参加する	・蓬萊日本語教室の活動について知る	日下部喜美子	

19	令和2年12月20日(日) 9:30~12:00	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	3	【実習】 日本語教室に参 加する	・日本語教室「サバイバル日本語学習」に参 加する ・自己紹介をする ・「〇〇ですか」「はい、そうです」「いいえ、 ちがいます」を使い、学習者と話す	佐々木千賀子	ワシム ムハンマド アルナ
20	令和3年1月24日(日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習セン ター	4	【実習】 日本語教室に参 加する	・日本語教室「～が好きです」に参加する ・自己紹介をする ・「～が好きです」を使って、学習者と話す	日下部喜美子 佐々木千賀子	ワシム ムハンマド アルナ ムサ ムハンマド
21	令和3年2月7日(日) 9:30~12:00	2.5	福島市蓬萊 学習セン ター	4	【実習】 日本語教室に参 加する	・日本語教室「～へ行きます」に参加する ・自己紹介をする ・学習者が「～へ行きます」を使って発話す るよう補助する	日下部喜美子 佐々木千賀子	アルナ 荒川 愛 佐々ベンジャマス
22	令和2年11月20日(金) 15:00~17:00	2	EIWAN事務 所	1	【実習】 子どもの日本語 教室に参加する	・作文指導 ・算数 繰り下がりのある引き算	日下部喜美子 佐々木千賀子	ロア ジェリマイア ロア マタイ レオン ティリ
23	令和2年12月4日(金) 15:00~17:00	2	EIWAN事務 所	2	【実習】 子どもの日本語 教室に参加する	・漢字宿題 ・分数の足し算、約分 ・小数の足し算・引き算	日下部喜美子 佐々木千賀子	ロア ジェリマイア レオン キファ レオン マウラ レオン ティリ
24	令和3年1月22日(金) 15:00~17:00	2	EIWAN事務 所	1	【実習】 子どもの日本語 教室に参加する	・読み聞かせ ・作文指導 ・算数 体積を求める問題	日下部喜美子 佐々木千賀子	ロア ジェリマイア ロア マタイ レオン キファ レオン ティリ ウシヤ

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【講義第8回 令和2年11月29日】

1 多様性豊かな時間を作る活動例

①外国出身者とともに活動するとは

②活動を通して学ぶこと

③エンパワメントについて

④日本語ボランティアとは

2 おなじってうれしい！ちがうって楽しい！

外国出身者と活動する

①挨拶絵本を使って外国出身者の言葉を学ぶ

②外国出身者と日本人がチームになり協力しながら、間違い探しゲームをする

③立場の逆転 外国出身者に教えてもらう(タイ語で名前を書く、インドネシア語を学ぶ、中国語で自分の名前を発音する、インドネシアの楽器を演奏する)

3 ことばの獲得のしかたを考える

4 プログラムの最終目的、活動の場づくりとエンパワメント

外国出身者への支援ではなく、共に学び合うということの確認

5 楽しくクラス活動をするための配慮

6 日本語教室とはどんなところなのか

日本語教室、日本語ボランティアの役割について、受講者同士で話し合う

7 振り返り

外国出身者と活動した感想を述べあう

振り返りシートをもとに、自己の学びを振り返る



○取組事例②

【実習第5回 令和2年9月27日】

- 1 自己紹介をする
- 2 友人や知人の家庭を訪問したときに必要な言葉や挨拶を確認する
- 3 訪問先で初めて会う人にする自己紹介を考え、練習する
- 4 訪問先で、どんな話題をするのがいいか考える。訪問先で訊きたいことを考える。
- 5 日本人家庭に行く
- 6 訪問した家庭で自己紹介をする。会話に詰まる場合、考えてきた話題で日本人に質問する。
- 7 教室に戻り、訪問先で誰と何を話してきたのか、どんなことを知ったのかなど感想を述べる
- 8 8で述べたことを中心に、日本人家庭の訪問をテーマに短い作文を書く。実習として参加している人は、その補助をする。
- 9 書き上げた作文をみんなの前で発表する。その様子をビデオに録画する
- 10 アンケート記入。実習参加者は記入の補助をする
- 11 後日、発表のビデオをYoutubeにアップロードする



(2) 目標の達成状況・成果

アンケート結果や講座受講者の振り返りをもとに、運営委員会で評価した。

【講義】

- ・オンラインでも受講が可能だったので、多数の申し込みがあり、さまざま背景の人が関心を寄せてくれた。福島県内だけでなく様々な地域の人が多く受講した。福島県のように外国人散在地域の参加者だけではなく、集住地域でボランティア活動をしている人の参加もあり、受講者同士の情報交換もできて外国出身者への多様な支援や活動を知ることができた。それにより、自分が住んでいる地域の活動を考えることもできた。
- ・出席率もよく、熱心に取り組む姿勢が見られた。
- ・「障害」をテーマにした「学習者に寄り添った日本語教育」の回では、「困難さ」を抱えている人との接しかたを学び、様々な人たちが生活している多様な社会に私たちは属しているという視点をもつことができた。
- ・「やさしい日本語」を使って外国出身者と対話することで、お互いが地域の住民であり、学び合い、協働する仲間であることが理解できた。
- ・外国出身者にとってより良い地域は、日本人にとっても良い地域である。そのような地域にするためにも、地域住民としてお互いを受け入れることの大切さを知ることができた。

【実習】

- ・研修会参加者に、地域に住む外国出身者とやさしい日本語を使って対話し、活動する機会を提供できた。それにより、外国出身者がより可視化され、同じ地域住民として何が出来るかを考えるきっかけを作ることができた。
- ・外国にルーツを持つ子ども対象の教室での実習では、大人と違った状況や、子ども特有の課題などを知ってもらうことができた。

(3) 今後の改善点について

【講義】

- ・「生活者としての外国人」のための日本語教育の理念がなかなか理解してもらえない人もいた。今後も研修会を実施し、「生活者としての外国人」のための日本語教育の理念を伝える必要がある。
- ・日本語の教授法が学べると期待した受講者が何人かいた。日本語ボランティア、日本語教室という「教える場」というイメージがまだあるので、次回は広報の段階で「一方的に日本語を教えるのではない。共に学び合う」ということをイメージできる文言を使うなどの工夫が必要
- ・オンラインでの研修を希望する人が多数いたが、一部対面での研修を望む人もいた。今後は、オンライン、対面のそれぞれの良さを生かして必要に応じた研修会の実施を工夫する。

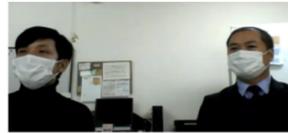
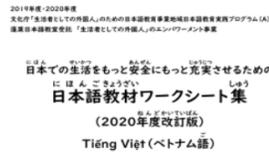
【実習】

- ・実習の参加者が少なくなかったが、その後その人たちが実際に活動にまで至ったのか疑問である。
- ・数回の実習で終わってしまうのではなく、その後も実際に活動につながるような実践の場の案内や提供が必要である。
- ・地域住民が関わり、外国出身者も日本人も学び合える場をどう作り続けるかが求められている。

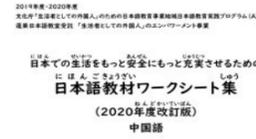
日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称:日本での生活をもっと安全にもっと充実させるための日本語教材ワークシート集】

取組の目標	ベトナム語及び中国語の生活ガイドを含む日本語学習教材を作成する。		
内 容	・ベトナム語と中国語の生活ガイドを含む日本語学習教材を作成した。 2019年度に作成したインドネシア語の生活ガイドの2つの項目を改訂し、日本語学習教材の内容をより充実させ、さらに新規3項目を付け加えた。 ベトナム語と中国語の生活ガイドを付け加えた。		
実施期間	令和2年 5月 23日～令和 3年 3月 14日	作成教材の 想定授業時間	<p style="text-align: right;">改訂、新規 55時間</p> <p style="text-align: center;">全体として</p> <p>1回 2時間 × 2回 = 4時間 1回 3時間 × 5回 = 15時間 1回 4時間 × 1回 = 4時間 1回 6時間 × 1回 = 6時間 1回 7時間 × 1回 = 7時間 1回 12時間 × 1回 = 12時間 1回 30時間 × 1回 = 30時間</p> <p style="text-align: right;">計 78時間</p>

対象者	インドネシア、ベトナム、中国出身のみならず出身国に関わらず使用可能。日本語のレベルは初級から上級まで、どのレベルに学習者にも対応可能。	教材の頁数	151ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を参考に決定した。		
事業終了後の教材活用	作成した教材を使い外国出身者に日本語講座を実施し、必要に応じて改訂、追加し、教材の内容を充実させていく。		
成果物のリンク先	文化庁のホームページ		

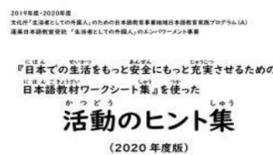


蓮葉日本語教室



蓮葉日本語教室

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称: 日本での生活をもっと安全にもっと充実させるための日本語教材ワークシート ヒント集】			
取組の目標	2019年度、2020年度に作成した「生活ガイドを含む日本語学習教材」を使って日本語ボランティアが日本語指導ができるよう日本語ボランティア用指導書を作成する。		
内 容	『日本での生活をもっと安全にもっと充実させるための日本語教材ワークシート集』を使って活動する上での留意点をまとめた活動実施のヒント集。 2019年度に作成した「生活ガイドを含む日本語学習教材」の指導書の意味合いを持つ。 日本語学習の協力者の依頼等の事前準備、日本語学習教材の具体的な進め方を解説し、日本語学習教材を実際に使ってもらうための指導書とした。 今年度は2つのトピックに関して作成し、残りは来年度に作成する予定。		
実施期間	令和2年 5月 23日～令和 3年 3月 14日	作成教材の 想定授業時間	1回 3時間 × 2回 = 6時間 計 6時間
対象者	日本語ボランティア	教材の頁数	15ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案「教材例集」を参考に作成した。		
事業終了後の教材活用	作成した教材を使い外国出身者に日本語講座を実施する際の参考にする。必要に応じて改訂、教材の内容を充実させていく。残りのトピックに関しては来年度に作成する。		
成果物のリンク先	文化庁のホームページ		



蓮葉日本語教室

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国出身者の存在を可視化し、外国出身者が地域住民にとって身近な人となり、様々な価値観を包摂した地域社会づくりが当たり前になる意識づくりのために、地域社会の人と外国出身者が接する機会を多く創出する仕掛けを創る。外国出身者が、日本での生活を安全で快適におくれるような知識と経験を提供する。
さらに、外国出身者が、自身が持つ文化や価値観が、地域社会にとって価値のあるものであることに気づき、地域社会に積極的に参加し発信していきけるようにする。
上記の目的を果たすために、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを含めた人材を育成する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・学習者のニーズに合わせた日本語講座を実施し、自分の得意な料理を紹介する動画や日本の風習などに持っている違和感をテーマにした動画を作成しYoutubeで公開することは、学習の成果の発表になるだけでなく、外国出身者を可視化し、さらには彼らの考えを表明したり、文化を紹介することにつながった。

・日本語講座に参加した外国出身者にとつたアンケートは、日本での生活に役に立ったと思う人80%、講座の内容に満足した人86.6%という結果だった。これを見ると、日本語講座に参加した外国出身者に、日本での生活を安全に快適に送れるような知識と経験を提供できたと考える。また、日本語が上手になったと思うと答えた人は80%で、地域住民が参加した対話型の日本語講座に参加したことで自らのコミュニケーション力が向上したと考えていることが分かる。

・日本語ボランティア研修会講義第8回終了後のアンケートによると、回答率は21.3%と低かったが、ボランティア未経験者17名中9名が「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと答え、さらに「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと答えた人は57.9%だったことから、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを含めた人材の育成に寄与できたと考える

・日本語ボランティア研修会の実習として日本語教室の活動に参加したあとでとつたアンケートに「日本語教室に参加する外国出身者は、日本語を学ぶためというより、地域とのつながりと求めて参加しているということが分かった。そういう人のためにボランティアとして何が出来るか考えるきっかけとなった」という記述があった。このことから、実習に参加し外国出身者とやさしい日本語を使って対話した延べ47名は、この事業に参加したこと外国出身者を同じ地域の住民であると認識し、外国出身者と地域社会をつなぐ役割を果たす行動をとるだろうと期待できる。

・日本人家庭を訪問した外国出身者の中には、訪問した家庭と付き合いが続いている人もいる。そして、その家庭の人からイベント情報などを教えてもらい、そこでまた日本人と友だちになり、交友範囲も行動範囲も広がってと聞く。このことから、外国出身者と地域住民が接する機会を提供できたと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案を参考に、活動を多く取り入れ、地域の人々を巻き込んだ日本語学習を心がけた。
カリキュラム案に掲載されている活動案やワークシートなどを地域の実情や外国出身者のニーズなどに合わせて書き換え、教材を作り日本語講座を実施した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・運営委員はじめ(公財)福島県国際交流協会、福島市国際交流協会、外国出身者コミュニティなど連携機関と密に連携をとり、事業を行うことができた。

・日本語ボランティア研修会を福島市と福島市国際交流協会と共催することで、福島市の広報誌に研修会の情報を載せてもらい広く市民に周知することができ、日本語教育に関心がある市民を掘り起こすことができた。研修会に参加した市民が同じ地域に住む外国出身者と接することができた。

・福島市国際交流協会や福島県国際課の職員が日本語ボランティア研修会の受講者として参加した。日本語教育や地域に住む外国出身者の現状などを知ってもらう機会になった。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・当教室のfacebookやチラシを作成し、周知・広報に努めた。また、自分たちだけで、広報や事業の実施を完結させないようにした。

・外国出身者コミュニティと積極的に連携し、テーマの設定や外国出身者への周知協力をしてもらった。

・(公財)福島県国際交流協会のホームページで日本語ボランティア研修会を広報してもらった。

・福島市と福島市国際交流協会との共催で、福島市の広報誌に日本語ボランティア研修会の広報してもらった。

・福島市教育委員会からの日本語ボランティア研修会の後援を得て、学習センターなど公共の施設を利用する人たちに向けて広報していただいた。

・今年度作成した動画をFacebookやYoutubeチャンネルで公開し、事業の成果を発信した。

(6) 改善点、今後の課題について

・活動や対話型の日本語学習のイメージがつかめない日本語ボランティアや外国出身者がいる。「生活者としての外国人」ための日本語教育の有用性を示し続けていきたい。

・外国出身者が日本語が流暢でなくても、今のその人が持っている力や人間性で地域社会の中に居場所を見つけ、社会的活動ができ、自己実現ができるように、今後も地域住民との交流の場を作り続ける必要がある。

・外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを含めた人材の育成に努めた。その人たちが、実際に行動を起こし地域の日本語教育の担い手となるようよう支援したり、ともに協力する必要がある。

・教材作成では、今後も日本語講座で使用し、よりよい教材に改訂していきたい。

(7) その他参考資料

作成したチラシ ・日本語ボランティア研修会参加者募集チラシ